

Part4 海や川での安全教室

4-1 海編

■ 実施目的	与名間海浜公園は、地形の関係により、離岸流（リップカレント）が発生する。海水浴などを行っている際に、気づかないうちにその流れに乗って流される子供もいることから、離岸流が発生する場所を知ることと、慌てず離岸流から抜け出る方法を身につけさせる。	■ 対象者	小中学生 ※島内だけでなく、学校の宿泊体験学習として島を訪れた小学生にも実施している。
■ 実施場所	与名間海浜公園（鹿児島県）	■ 指導者	3名 + スタッフ（2名ほど） ※学校の先生などをお願いする。
■ 実施時期	5月～8月頃	■ 準備するもの	・水着 ・ゴーグル ・ライフジャケット（全員着用） ・救急箱
■ 事例提供	鹿児島県天城町B&G海洋センター	■ 事前確認事項	活動場所の潮汐、天候、潮流、速さ、水深

本件は、天城町B & G海洋センターでの実施事例である。

実際に海などの自然環境でプログラムを実施する場合は、事前準備（現場の下見、潮汐、天候・危険箇所の確認等）を行い、参加対象や人数に応じて綿密な監視体制のもと、安全に十分に配慮して実施すること。

1. ライフジャケットを着用した離岸流体験

参加者にライフジャケットを着用させ、離岸流に乗ることで、離岸流の流れの速さなどを体験させる。

離岸流の特徴について、説明したのち活動場所の説明をし、安全に十分に配慮して実施する。

※潮汐や天候によって、「潮流・流れの速さ・水深」が違うので、実施可能と判断した場合のみ実施。



● 活動場所の説明

- ① 実施場所の地形・離岸流について、説明する。
- ② スタート位置・ゴール位置・危険箇所を説明する。
- ③ 活動する場所を指定し、参加者が監視の目から離れないことを説明する。

● 離岸流体験

- ① 一列に並び、離岸流に乗る。
- ② 流れているときは、落ち着いて周囲を観察しながら進む。
- ③ 終了地点付近で流れに対し横に抜け出て、岸に帰ってくる。

列の先頭と最後尾、列の横、終了地点付近に指導者を配置し、安全管理を行う。

指導者もライフジャケットを着用する。

参加者10名に対して指導者を6名程度配置する。

● 指導のポイント

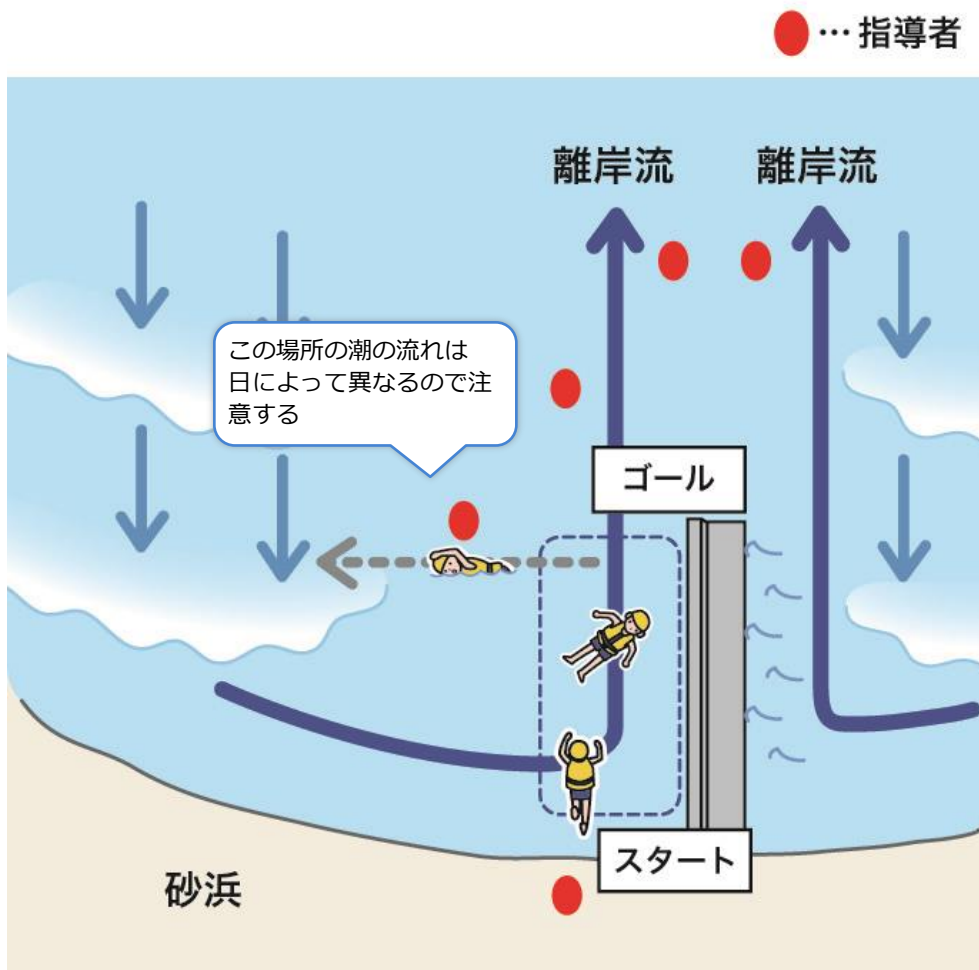
- ・ 不意に離岸流に乗ってしまったら「慌てない・落ち着く」ことを、理解させる。
- ・ 脱出する方法として、離岸流に逆らって泳ぐのではなく、海岸と平行に泳ぎ、離岸流から抜け出して岸に向かって泳ぐことを理解させる。

● 参考資料・動画

参考資料『3-4 水辺の危険－海』

参考動画『海の危険ポイントと安全対策』

実施体制図



**ここから先をご覧になりたい方は
ユーザー登録が必要です。**